



■ 学校教育目標

『自ら・共に拓く堺小っ子』

- 進んで考える子
- 思いやりのある子
- 心と体をきたえる子

発行日：令和4年7月19日

社会地域資源の活用 本物に触れる経験を 読書習慣を

先日、5年生の男子が、新体力テストの立ち幅跳びで、昨年度に比べて記録が大きく伸びたことを嬉しそうに報告しに来てくれました。以前お伝えした新体力テストのねらい「児童が自己の成長を感じ取る機会とする。」「自分の達成したい目標値を設定し、運動に対する意欲の向上を図る。」に迫っていることを実感した瞬間でした。私も大

変嬉しくなりました。



「租税教室」で1億円と同じ重さの模造の札束を抱える6年生

さて、7月7日（木）に、4年生の総合的な学習の時間において、町役場産業課や文化会館の方々を講師とした『出前講座』を行いました。内容は早朝に採れた様々な種類の魚の観察やそれらの説明、質疑応答などでした。餌をくわえたアンコウなどもあり大変盛り上がっていました。

現在、子供たちを取り巻く教育環境はネットやテレビ等を介して感覚的に学び取る「間接体験」やシミュレーション、模型等を通じて模擬的に学ぶ「模擬体験」の機会が圧倒的に多くなってきています。それだけに、ヒト・モノや実社会に実際に触れ、かかわり合う「直接体験」を重視し、豊かな人間性や、自ら学び、自ら考える力などの生きる力の基盤、子供の成長の糧にしていきたいと考えているところです。

そこで、本校では、具体的に、総合的な学習の時間や、生活科や社会、理科などの教科等において、地域の人材や自然、施設などの地域資源を積極的に有効に活用していきたいと考えています。

また、6月22日（水）には、浦河税務署の委託を受けた税理士さんを講師に6年生対象の『租税教室』を、また、7月8日（金）には、警察署の方を講師に全校を対象の『防犯教室』を実施し、19日（火）には、管内人権擁護委員会の方々を講師に3年生対象の『人権教室』を予定しています。このように、様々な関係機関とも積極的に連携を図っていきたいと考えているところです。



読書タイム

左の写真は給食後の「読書タイム」の様子です。どの学級もシーンと静まり返った中での読書となっています。毎日10分間、1年間で約33時間、授業以外で読書することになります。家庭においてはなかなか読書の時間を取れないのが現状ではないかと思えます。だからこそ、大変貴重な時間であると感じているところです。読書は感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かにし、人生を深く生きる力が育まれます。すなわち、子供の人格形成に寄与するものとなります。夏休み中は、読書に慣れ親しむ時間を比較的取りやすいのではないのでしょうか。無理をせず、毎日10分、20分でもいいと思います。読書の習慣化に向けて、読書に慣れ親しむ時間の確保にご協力いただければと思います。